

令和5年度第1回 日高市総合教育会議 会議録

開催の日時	令和5年12月21日（木曜日）午後3時から4時12分まで
会議開催の場所	市役所501会議室
会議の公開又は非公開の別	公開
非公開理由	—
出席した会議の構成員の氏名	谷ヶ崎照雄市長・中村一夫教育長・山川治美委員 ・島村由起男委員・芳澤佐織委員・馬場優子委員
構成員以外で出席した者の氏名	滝沢教育部長・長嶋教育部参事・野口教育総務課長・利根川学校教育課長・下ノ坊学校教育課副参事・中條生涯学習課長・大河原教育総務課主幹
傍聴者数	なし

〔議事〕

- (1) コミュニティ・スクールを基盤とした小中一貫教育の進捗状況について
- (2) 校内教育支援センターの進捗状況について

〔会議資料〕

- ・ 会議次第
- ・ 資料1 地域全体で支える学校教育・学校を核とした地域づくり 小中一貫教育、コミュニティ・スクール進捗状況
- ・ 資料2 校内教育支援センター（高萩中ユリイカ）の進捗状況

1 開会

（省略）

2 あいさつ

（1）市長あいさつ

（省略）

3 議事

（1）コミュニティ・スクールを基盤とした小中一貫教育の進捗状況について

〔説明要旨〕

学校運営協議会の開催状況やコミュニティ・スクール、小中一貫教育の取組状況、武蔵台小中学校における成果と課題、義務教育学校開設に向けたスケジュール等について、説明を行った。

〔質疑要旨〕

委員：武蔵台小中学校の成果と課題について、開校してまだ1年がたっていないが、よく分析できていると思う。

事務局：小学校、中学校の両校長が早めに準備を進め、積極的に交流を進めたことにより、仲間意識が高まり教員らの不安は少なかったようである。

委員：課題については、次に高根、高麗と続くので解決しながら取り組んでほしい。小中が一つになることによるハード面での不具合は報告されているか。

事務局：武蔵台は小学校の校舎を利用している。中学生にアンケートをとったが、施設面での不都合な回答は出てこなかった。

市長：高根地区も同じように小学校校舎を活用するので問題はないと思っているが、その次の高麗は中学校校舎を活用するので、よく検討する必要がある。

事務局：小学校低学年向けに手洗いや衛生器具の高さを変えるなどの対策が必要である。

委員：小中一貫教育について、地区ごとの特色が出ていてよいことだと思う。施設一体型は順調に進んでいるが、施設分離型の一貫教育は距離が離れている分、移動時間の問題等、今後検討していかなければならない課題はある。

委員：武蔵台小中学校が開校し、管理職の労働時間はどうか。

事務局：スタートした当初は、落ち着いておらず教頭の時間外勤務が増加していたが、現在は落ち着いてきている。また、校長が1人のため、様々な場面で対応することが増えている。

委員：武蔵台はよいスタートが切れたと思うが、時がたつにつれてマンネリ化し、単に小学校と中学校が同じ校舎を使っているだけにならないように、特色ある取り組みを教育委員会や学校が意識し続けることが大切である。

事務局：校長もスタートは順調であったが歩みは止めないと常に言っている。前例がないことでもやってみるといふ意気で行っている。

委員：奇をてらった取組である必要はないので、義務教育学校としてうまく機能していけるようにしてもらいたい。

教育長：子どもたちが9年生になった時に自立できるよう教育していかなければならない。

市長：市としても教育関係には力を入れ環境改善を行ってきた。子どもたちの学力の向上に取り組み、将来の選択肢を広げてあげてほしい。できない子どもの底上げを行うのはもちろんだが、できる子どもをどんどん伸ばしていく教育も大切だと思う。

(2) 校内教育支援センターの進捗状況について

〔説明要旨〕

不登校の現状や校内教育支援センターの状況、課題等について説明を行った。

〔質疑要旨〕

委員：不登校は様々な状況があり難しい問題である。学校に行かなくても教育が受けられる環境を整備することが大切である。

市長：不登校の要因分析や教員の対応状況はいかがか。

事務局：主な要因は無気力や不安といったものである。対応としては、不登校の子どもやその保護者とは定期的に連絡を取るようになっている。また、教育相談室の

スクールソーシャルワーカーと連携して家庭訪問をするなどしている。

委員：どこかで目にしたものに、不登校の子は昼夜が逆転しているケースが多いとあった。さらに、食事は食べたいときに食べ、閉ざされた空間で1人で生活ができる環境になっていることが多いというものである。

市長：不登校の子は自校の中にある教育支援センターと他校にあるそれとではどちらが通いやすいのだろうか。

事務局：2年程前までは、校内に支援センターを作っても、不登校の子は学校に行きたくないと思っているため、設置の意味が疑問視されていたが、今は考え方が変わってきている。登校はするが教室に入れなくて居場所がないというケースもある。

委員：学校は行かないが、放課後に子ども同士で遊んでいる子もいる。

教育長：登校しても教室に入れずに居場所がない子は、保健室や図書室などですごさなければならない。

市長：不登校の子が多い学校には支援センターが必要かもしれない。退職校長会の協力を得るのもいいかもしれない。

委員：日高市は会計年度任用職員を配置しているが、他市では教職員が空き時間に様子を見に来るといったところもある。その場合だと、後に登校しなくなるケースが多いようである。

市長：教職員ではない人が担当したほうがよい。

委員：幼稚園、保育園と連携することもよいかもしれない。また、早いうちから不登校になる場合は発達障がい要素がないかを考えたほうがよい。対応の仕方も変わってくる。

市長：校内教育支援センターについて、必要に応じて設置を検討してもらいたい。

4 閉会 (省略)